

20170730 「信仰の父アブラハム」

目標： アブラハムがなぜ「神の友」「信仰の父」と呼ばれるようになったのか、創世記12章の記事を中心にアブラハムの決断を考える。

聖書箇所：創世記12：1-9 時間：10分

暗誦聖句：創世記12：2

道具： ホワイトボード、ペン、古代中近東の地図

対象者： 中3×1 中1×1 小6×1 小5×3 小3×1 小2×1 小1×2 未就園児×2

留意点： 各人がアブラハムになぞらえて彼の決断を考えさせるようにし、アブラハムの行動の得意さに気づかせたい。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	これからアブラハムさんを何回か学んでいきます。		課題の提示
		アブラハムさんで思い出すことはありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> ・子供を献げた。 ・「神の友」 ・「信仰の父」 ・忘れた。 	彼らは数年前にアブラハムのことを学んでいる。恐らく明確に覚えてはいないと思われるので、「神の友」「信仰の父」は、ある程度尋ねた後、教師側から提示する。
		アブラハムさんは、最初からそう呼ばれていたわけではありません。		「神の友」「信仰の父」を板書し、この言葉の素晴らしさを確認した後、そう呼ばれるようになった経緯に目を向けさせる。
課題探究	6分	アブラハムは、元アブラムと言いました。		聖書にはアブラムと載っている。あらかじめ説明をし、アブラハムと呼んでしまっても差し支えないようにしておく。
		元々、今のイラクやクウェートのところにあつたウルという大都市（当時）出身の人です。カナンへ行こうとした途中でお父さんのテラが亡くなります。神様の言があったのはその直後でした。		東京になぞらえると、そこから出るという意味を掴みやすいだろう。
		12章1-3節を、一緒に読みましょう。		カナンに行こうとしていた父が死に、行くべき理由を失って、異国の地にいるアブラハムの心境を想像させたい。そこに神の声があったのである。
		みんなは、このような言葉を突然言われたら、どうすると思いますか。	・信じない	神が示す地は未だどこか解らないことと、祝福の約束が伴っていることが、要点である。
		なのに、アブラムは、それを信じたと聖書は記しているのです。		それまで神の言をアブラムは聞いたことがない事を添えると、俄然この言の強烈さが際立つだろう。
		この後アブラムは、順調に何事もうまくいったわけではありません。でも、その都度、神様を信頼し、「神の友」「信仰の父」と呼ばれるようになっていったのです。		「信じて出発する」という子供は、この言葉の重さを理解していない。世間の常識に照らして深く考えさせたい。
		皆さんも、神の友と呼ばれたくありませんか。アブラハムのように、神様を信頼して歩んでほしいと思います。神様はあなたをアブラハムのように恵みで満たしてください。		前段の理解が深ければ深いほど、この段の意味あいも深くなる。
まとめ	2分	暗誦聖句		190号のテーマ「神の恵みに生かされる」からの反映。教師自身の感想として提示しても良い。